

職員朝礼校長より 1.

9月6日（木）「教わる気になるな、問いも自分で見つけろ」

本日より職員朝礼の時間で、教員向けのメッセージを述べることにしました。

校長に就任してもう2年と5か月たちます。附属の校長は大学の教員がやっていて、附属に来るのは月と木の2日だけです。その職朝で私はずっと「おはようございます。本日もよろしくお願いします。」しか言ってきませんでした。先生方の朝は忙しいし、教育のプロの先生方に何か物申すことに遠慮があったのですが、先日「それではいけない、教員にもなにかメッセージをください」と、ある教員から言われ、大変遅くなってしまいましたが、本日より教員向けのメッセージを述べることにしました。

今日は「**教わる気になるな、問いも自分で見つけろ**」、そういう授業を工夫してほしい、と申しあげました。勉強というのは先生が質問をし、生徒が答える。正解は先生が知っている、そのように思い込んでいる生徒が少なくありません。ここからまず崩したい。勉強は学問であり、根本的に答えはありません。問いも自分が見出さなければなりません。ここに学問の教育的な意味があります。上から与えられた問題を上から与えられた方法で答えを導き、結果を上評価してもらう、そんな人間を教育が育てたいわけではありません。教育は基本的に自立の支援です。それは人間として自立すること、人間が人間になることを支援することです。そのためにはまず問いに目覚めさせなければなりません。どうしても問わずにはいられない問いに目覚めさせること、教員がなすべき第一歩はこれに尽きると思います。

9月20日（木）「教わる気になるな、問いも自分で見つけろ」

今回も引き続き「教わる気になるな、問いも自分で見つけろ」です。問いを学ぶと書いて「学問」と読みます。問いを学ぶこと、これが学問のすべてと言っても過言ではありません。すべての学問の根本に**哲学**がありますが、哲学の語源 *philosophia* は「愛知」、「**知りたいたいと思うこと**」です。「問い」です。知っているということではありません。生徒に問いを学ばせる工夫をして下さい。先生方の方でそうした取り組みの事例がありましたら、メールで私の方までお知らせ下さい。匿名でこの校長の部屋で紹介したいと思います。